

日本語の接頭辞「小-」と「薄-」について
 — 価値判断の観点から —
**Linguistic Manifestations of Value Judgement:
 A Particular Focus on Japanese Prefixes *ko-* and *usu-***

久保 圭
 Kay KUBO

京都大学大学院
 Kyoto University, Graduate School
 antshavenoborder@gmail.com

Abstract

In this paper I clarify the meaning and usage of Japanese Prefixes *ko-* and *usu-* in terms of value judgement. Although Taylor and Seto (2008) describes Japanese diminutive *ko-*, as far as I know, there is no previous research about Japanese Prefix *usu-*, which seems to have a close meaning of *ko-*. At first, I make a survey of the description about *ko-* in Taylor and Seto (2008). Next, I analyze instances of *usu-* in terms of value judgement.

Keywords

Japanese Prefix, Diminutive, Value Judgement, Semantic Polysemy, New Expression

1. 本研究の目的

本研究の目的は、日本語の指小辞である「小-」と日本語の接頭辞「薄-」について、その意味と用法を明らかにすることである。

指小辞の「小-」については、テイラー・瀬戸(2008)にその記述がみられるが、それと近い意味と用法を持つと考えられる接頭辞「薄-」に関する先行研究は、管見の限りにおいてない。

本発表では、まずテイラー・瀬戸(2008)における「小-」の記述を概観し、次に「薄-」の事例とあわせて、主に価値判断の観点から分析し、その結果にもとづいて考察をおこなう。最後に、ウェブ上でみられる「薄-」の新規的表現についても分析をおこない、結語を述べる。

2. 本研究の分析対象

前節で述べたように、本研究では、日本語の指小辞「小-」と日本語の接頭辞「薄-」を分析対象として扱う。該当する事例のなかでも、とりわけ各接頭辞に形容詞と形容動詞が後続しているものを扱う。あらかじめ注意書きをすると、「不-」や「無-」などに代表される、日本語の否定接頭辞の意味や用法は、中国語での意味や用法を反映している可能性が多分にある。当然、発表者はその可能性を否定しない立場を採っているが、本研究では、あくまで日本語として用いられた際の事例を分析し、その意味と用法について考察をおこなったものである。

以下に挙げるものは、指小辞の「小-」と、接頭辞「薄-」を用いた事例の一部である。なお、文頭にアスタリスク・マーク(*)が付いているか否かは、該当する表現が国語辞典に記載されているかをその判断基準としている。

- (1) a. 彼の格好は小汚い.
 b. 彼の格好は薄汚い.
 c. 寒くて暗くて、この部屋は小気味悪い.
 d. 寒くて暗くて、この部屋は薄気味悪い.
- (2) a. この音楽は小気味好い.
 b. *この音楽は薄気味好い.
 c. 小ざれいな服装で出かける.
 d. *薄ざれいな服装で出かける.
- (3) a. *もう七時なのに、まだ空が小明るい.
 b. もう七時なのに、まだ空が薄明るい.

- c. 天気予報では晴れだったのに、やけに空が小暗い。
 d. 天気予報では晴れだったのに、やけに空が薄暗い。

以上の例で、(1a, 1b) や (1c, 1d) は言い換えがほぼ可能である。これは「小-」と「薄-」の意味が非常に近いことを示している。しかし、(2a, 2b) や (2c, 2d) から、その用法に差異があることは明らかである。さらに、「明るい」が語基として後続している (3a, 3b) では用法に差がみられるのに対して、「暗い」が後続する (3c, 3d) では差がみられないことがわかる。「薄-」が「明るい」と「暗い」の両方に結合するのに対して、「小-」は「暗い」のみが後続可能であることは、非常に興味深い現象である。

3. 先行研究の概観

本節では、日本語の指小辞「小-」に関する先行研究であるテイラー・瀬戸 (2008) を概観する。

テイラー・瀬戸 (2008) では、指小辞「小-」の多義ネットワークの主要部分について分析しており、その意味を「程度」「強意」「軽蔑」の三つに大別した。この三つの意味は、物理的な大小に関して「小さなもの」をあらわすという「小-」の中心義から展開したものであり、互いに完全に切り離して考えられるものではないが、それぞれに特化した用法であると述べている。以下は、指小辞「小-」の各意味の具体的事例をテイラー・瀬戸 (2008) から抜粋したものである。

- (4) 【程度】 小雨, 小銭, 小技, 小聲, 小言, 小降り, 小分け, 小太りなど
 【強意】 小汚い, 小憎らしい, 小ぢんまり, 小うるさい, 小気味がよいなど
 【軽蔑】 小役人, 小馬鹿, 小賢しい, 小利口, 小器用, 小理屈など

以下は、テイラー・瀬戸 (2008) における指小辞「小-」に関する記述を筆者がまとめたものであ

る。

たとえば、【程度】に分類されている「小雨」は雨の一粒の大小が問題なのではなく、その振りかたそのものを注視した表現である。確かに雨水そのものは具象的な物ではあるが、「小雨」の「雨」は事象であり、時間経過の中で起こる出来事である。つまり、この「小-」は事象として雨の程度をあらわしているといえる。

また、【強意】に分類されている「小汚い」は、たいていの辞書では「どことなく汚らしい」という解釈を挙げるにとどまるが、「淀川の水は小汚い」「見るからに小汚い店」「余りにも小汚い車」「非常に小汚い格好」などの実際の用例から判断すると、この「小-」が強意の意味を獲得していることがわかる。

そして、強意の「小-」は、しばしば否定的な意味や非難をあらわす意味と一緒になる。この否定的意味合いは、中心義の「小-」に潜在的に含まれているものである。「大」に対する「小」は、一般に価値の低い方向に傾く。この「小-」に伴うマイナス・イメージは、物事を矮小化して【軽蔑】し軽視する態度となる。

4. 本研究のアプローチ

前節の先行研究をふまえて、本研究では「小-」に近い意味を持つと考えられる日本語の接頭辞「薄-」について、主に対比と価値特性の観点から分析し、考察をおこなう。

価値特性とは、経験世界の知識から認知主体が下す価値の肯否を指しており、さらに「肯定的価値」と「否定的価値」に分けられる。肯定的価値とは、人間の価値判断において望ましいとされる価値をあらわし、一方、否定的価値とは、望ましくないとされる価値をあらわす。

また、これらの価値は語に内在している場合と、文脈に依存する場合に分類が可能である。例えば、有光 (2006) では、語それ自体が持つ否定的価値を「価値的否定性」とし、その他の構成要素と組み合わせざったり、文の一部となることによってあらわれたりする否定的価値を「対象依存的否定性」

として分析をおこなっている。

5. 分析結果と考察

本節では、日本語の接頭辞である「薄-」について、主に対比と価値特性の観点から分析をおこなう。なお、以下の表は(1-3)の事例をまとめたものである。「番号」は前述の例文番号に対応している。そして、用いられている「接辞」とその「意味」を分類し、後続する「語基」とそれが示す「価値」について分類している。なお、クエスチョン・マーク(?)が付いているものは、非正例的表現が使用されると仮定した場合に想定される分類・特性である。

表：事例の意味的分類と価値特性

番号	接辞	意味	語基	価値
(1a)	小	強意	汚い	neg
(1b)	薄	強意	汚い	neg
(1c)	小	強意	気味悪い	neg
(1d)	薄	強意	気味悪い	neg
(2a)	小	強意	気味好い	pos
(2b)	薄	強意?	気味好い	pos?
(2c)	小	強意	きれい	pos
(2d)	薄	強意?	きれい	pos?
(3a)	小	程度?	明るい	pos?
(3b)	薄	程度	明るい	pos
(3c)	小	程度	暗い	neg
(3d)	薄	程度	暗い	neg

以上の表において、意味的分類はテイラー・瀬戸(2008)にならい、「強意」と「程度」を用いた。ここでは、度合いが少ないことをあらわしていると考えられるものを「程度」に分類し、また、度合いを強めていると考えられる事例を「強意」に分類した。

たとえば、「小暗い」や「薄暗い」は暗いことを強調した表現ではなく、暗さが確かにあるものの、まだそれが少なく感じられる状態をあらわしていると考えられるため、このような事例は「程度」

に分類した。また、「小汚い」と「薄汚い」は「汚れが少ない」という意味を持つ表現ではなく、むしろ汚れていることを強調する表現であるため「強意」に分類した。

上記の表からわかる事実は以下の二点である。

① 「薄-」が強意の意味を持ち、かつ語基が肯定的価値を示す事例がない。

② 「小-」が程度の意味を持ち、かつ語基が肯定的価値を示す事例がない。

本発表では、①について考察をおこなう。

まず、表からもわかるように、「薄-」を用いた事例において、語基の価値と表現全体の価値が同じになる場合が多い。例えば「汚い」と「薄汚い」はともに否定的価値を持っている。それに対して、(3b)の「薄明るい」という表現の語基である「明るい」は、肯定的価値に傾きやすいが、「薄-」が付くことで否定的価値へと反転する。それは以下の作例からも明らかである。

(5) 薄明るい未来が待っている。

それに対して、「薄暗い」の「暗い」は否定的価値に傾きやすく、それは「薄暗い」においても同様である。ここでひとつの仮説を立てることが可能である。

③ 「薄-」に肯定的価値を持つ語基が後続すると、表現全体の意味が否定的価値に反転する。

この仮説をふまえて、次節では「薄-」の新規的用法について分析する。

6. 「薄-」の新規的用法について

(2d)の「薄きれい」という表現は、辞典などにはその記載がないが、ウェブ上では確認することが可能な事例であり、その用法は「小きれい」とはまったく異なるものである。以下はウェブサイトからの引用であり、下線は発表者によるもので

ある。

- (5) 僕より先に入店していた薄ぎれいなオバサンも散々店員にアドバイスを貰った後に「いいのが無いなら買わないほうがいいわよね、いいのが無かったんだから仕方無い」とかえらく失礼なことを言っていたのであまりいいメガネを置いていない店なのかもしれない。

(<http://s-smells.jugem.jp/?eid=2425>)

- (6) 薄汚いは男らしさ、薄ぎれいはただのメッキ

(<http://blog.goo.ne.jp/2009nekotani/e/e313c68e4c0733b178c085a7441dcbc7>)

以上の例から、「薄ぎれい」は「小ぎれい」の「ほどよく整っていて清潔なさま」という意味を持たず、また、肯定的な意味で用いられているとも考えにくい。この意味を推測するならば、「表面上はきれいにみえるが、実際（本質？）はそうではない」となるように思われる。このような新規的表現の分析においては、表現に対する容認度の揺れが大きいため注意が必要であるが、肯定的価値を持つ「きれい」という語基に、「薄-」を結合させて「薄ぎれい」という表現にした場合、否定的な価値に傾く（価値が反転する）という点は、③の仮説に一致しているといえる。

7. 今後の課題

本発表では、価値判断の観点から、日本語の接頭辞「小-」と「薄-」について分析し、その結果から以下の言語事実を示した。

① 「薄-」が強意の意味を持ち、かつ語基が肯定的価値を示す事例がない。

② 「小-」が程度の意味を持ち、かつ語基が肯定的価値を示す事例がない。

また、上記の①について考察をおこない、以下の仮説を提示し、ウェブ上で確認される「薄-」の

新規的用法についても分析をおこなった。

- ③ 「薄-」に肯定的価値を持つ語基が後続すると、表現全体の意味が否定的価値に反転する。

今後の課題としては、まず上記の言語事実①②を動機付ける要因について探ることが挙げられる。また、さらに多くの事例を分析することで、③の仮説の妥当性についても検討したい。事例の収集については、日本語の大規模コーパスを用いる予定である。事例の収集と同時に、各事例がどのような文脈で用いられているかについても分析をおこないたい。最後に、正例である「小ぎれい」とは異なった振る舞いをみせる「薄ぎれい」などの新規的表現についても考察をおこないたい。

参考文献

- [1] 有光奈美. (2006). 日・英語の対比表現と否定のメカニズム — 認知言語学と語用論の接点, 京都大学 人間・環境学研究科 博士論文.
- [2] ジョン・R. テイラー, 瀬戸賢一. (2008). 『認知文法のエッセンス』. 東京: 大修館書店.
- [3] 影山太郎. (1993). 『文法と語形成』. 東京: ひつじ書房.
- [4] 久保圭. (2011). 否定表現に関わる動的プロセスと価値判断について — 日本語の否定接頭辞を中心に —, 『言語科学論集 第16号』, 京都大学大学院 人間・環境学研究科, pp. 57-77.
- [5] 山梨正明. (2000). 『認知言語学原理』. 東京: くろしお出版.

辞書

- [1] 鎌田正・米山寅太郎 (著). (2001). 『漢語新辞典』. 東京: 大修館書店.
- [2] 諸橋轍次 (著). (1989). 『大漢和辞典 修訂第二版』. 東京: 大修館書店.
- [3] 佐藤進・濱口富士雄 (編). (2006). 『全訳 漢辞海 第二版』 東京: 三省堂.